

式 辞

本日ここ武庫川女子大学から、新たな一步を踏み出そうとしている皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

本来であれば、この門出の時を、保護者の方々とともにお祝いしたいところではありますが、感染防止の観点から式へのご臨席についてご理解を賜ることとなりました。保護者の皆さまにはこの4年（薬学科においては6年）にわたり、ご息女の教育を本学に託してくださいましたことに衷心より感謝を申し上げます。

さて、本日の卒業証書・学位記の授与式は皆さんの人生において学生から社会人への大きな節目となります。そして後にきっと“この時”が時代や社会の転換点であったと記憶に残る特別な日となることでしょう。

2年前、令和元年度末から始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行は大学教育を一変させました。当時の卒業式、入学式は中止を余儀なくされ、在学生は先輩を送り出すことも新入生を迎えることもできない状況となりました。命と健康を守るためとはいえ、大学生活の大切な節目の瞬間をともに過ごすことができなかったことは残念でなりません。

さらに緊急事態宣言の発出を受け、令和2年度前期はキャンパスの立ち入りを禁止し、授業はいずれもオンラインに切り替えました。その後も刻々と変わる状況をみながら、対面授業の割合を増減させる日々が続きました。学びの集大成である卒業研究を進めるうえでも、アンケートや対面での調査がしづらいななど少なからぬ影響があったと思います。学友会活動においても禁止や制限を繰り返し、練習や大会への出場がままならないことも多かったと思います。また、コロナ禍は就職活動の在り方も変えました。オンライン面接が主流となり、画面越しに気持ちを伝える難しさを感じた人も多かったことでしょう。

ただ、変わらないものもあります。どんな状況にもくじけず、前を向く学生たちのパワーです。皆さんは武庫女の伝統を途切れさせまいと、あらゆる場面で後輩たちを励まし導いてきました。その思いが結実したのが昨年のオンライン体育祭であり、ハイブリッド文化祭です。現在、多くのクラブが各種大会や発表会において以前にもまして好成績をあげています。バトンはしっかりと受け継がれています。前例のないこの2年あまりの日々を過ごした皆さんは、例年の学生よりも多く悩み、戸惑い、そして考えたことでしょう。その中で積み重ねた経験と知識は必ずや力となって、これからの人生を支えてくれると確信しています。

いま社会を見渡せば、デジタル化に加え、ICTや人工知能AIの導入、そして、それに伴う大きな変革の波が押し寄せています。人の働き方は通勤から在宅やテレワークへ、住まいは都会から地方へ、これから発展する企業や仕事と、衰退する企業や仕事の峻別など、急速に社会の有り様に変化しつつあり、私たちの生き方をはじめ今後あらゆるものが加速度的に変化するでしょう。このような中、卒業する皆さんは変革する時代の転換点にトップランナーとして、社会に出る（あるいは進学する）こととなります。その時には、この武庫川女子大学の卒業生であることに強い誇りと自信を持ってください。

本学は、初代学院長・校祖 公江喜市郎先生、第2代学院長・日下晃先生、現学院長大河原量先生のリーダーシップのもとに、教職員、学生・生徒、保護者の方々、そして卒業生が心をあわせ協力し合い、いまや大学は10学部17学科、短期大学部7学科、大学院7研究科を有する女子総合大学に発展しています。令和元年には本学の母体となる武庫川学院の創立100年に向けた、「MUKOJO Vision」を公表し、「一生を描ききる女性力を」育むため、さらなる発展に向けて歩みを進めています。

今後、皆さんはさまざまな分野で活躍されることでしょう。そしてその先々で、成長するためのあらゆる決断の場に遭遇することでしょう。その時、勇気をもって一步踏み出すことにより、新しい未来が開けます。その連続が、「MUKOJO Vision」に謳われる「一生を描ききる女性力を」大いに育むことにつながります。

一方、皆さんは、武庫川学院の同窓会である鳴松会の会員になります。会員はいまや 19 万人を超え、各々が社会や家庭にあって、立学の精神や教育目標を体現しています。お互いに手を取り合い、周囲の人々に支援の手を差し伸べ、一人ひとりが個性豊かな自立した女性として日本全国、また世界各地で大いに活躍されています。

その多くの先輩の中で、国内外で大活躍中の小説家、湊かなえさんがラジオ番組を通して皆さんにメッセージをくださいました。今から 27 年前、実は湊さんは私の研究室のゼミ生で、彼女が卒業間近の平成 7 年（1995 年）、1 月 17 日早朝に阪神・淡路大震災が発生しました。当時、卒業式の開催が危ぶまれましたが、なんとかか式だけは執り行うことができました。今、コロナ禍で、多くの式典が制限を余儀なくされている状況が当時に重なります。

では、湊さんのメッセージを読み上げます。

「街を歩いていると、はかま姿の学生や制服にコサージュを付けた方を見かけます。今年は卒業式ができたんだとうれしくなります。私の時は 1 月に阪神・淡路大震災があり、卒業式ができるのかな、と不安でしたが、制服を着て式典が行われました。節目の行事がきちんとできたことで、学生時代が終わった、4 月から社会人として頑張ろうと気持ちを切り替えられたと思っています。その時の特別感も時間とともに薄れていましたが、一昨年から続くコロナの状況で、当たり前と思っていたことが、実は当たり前ではないことをあらためて感じ、こういう行事ってできることが幸せなんだと思うようになりました。武庫女の後輩の皆様も今年は卒業式ができてよかったですね。卒業おめでとうございます。皆さんの親戚の気分でエールを送ります。春から頑張ってください。」

というメッセージです。

皆さんにはこのようにエールを送ってくれる卒業生が 19 万人もいるのです。これは頼もしく、心強いことです。そして、皆さんも明日からはその卒業生の一人として、研鑽を積み、後輩たちの良きロールモデルとなってください。多くの皆さんにとって学生時代は本日をもって終わりますが、むしろ皆さんの真価が問われるのは、これからの学びとそれを基盤とする生き方です。この女性活躍の時代に一人ひとりが歩みを止めることなく前進してください。卒業生の活躍は、私ども教職員全員の大きな誇りです。

最後にあらためて、保護者の皆様のお力添えに心より感謝を申し上げるとともに、卒業生の皆さんの社会でのご活躍と、ご健勝、ご多幸をお祈りし、式辞といたします。

令和 4 年 3 月 19 日

武庫川女子大学
学長 瀬口 和義

